

(修正案)

新時代とやま ハイスクール

再構築ガイドライン

資料 3

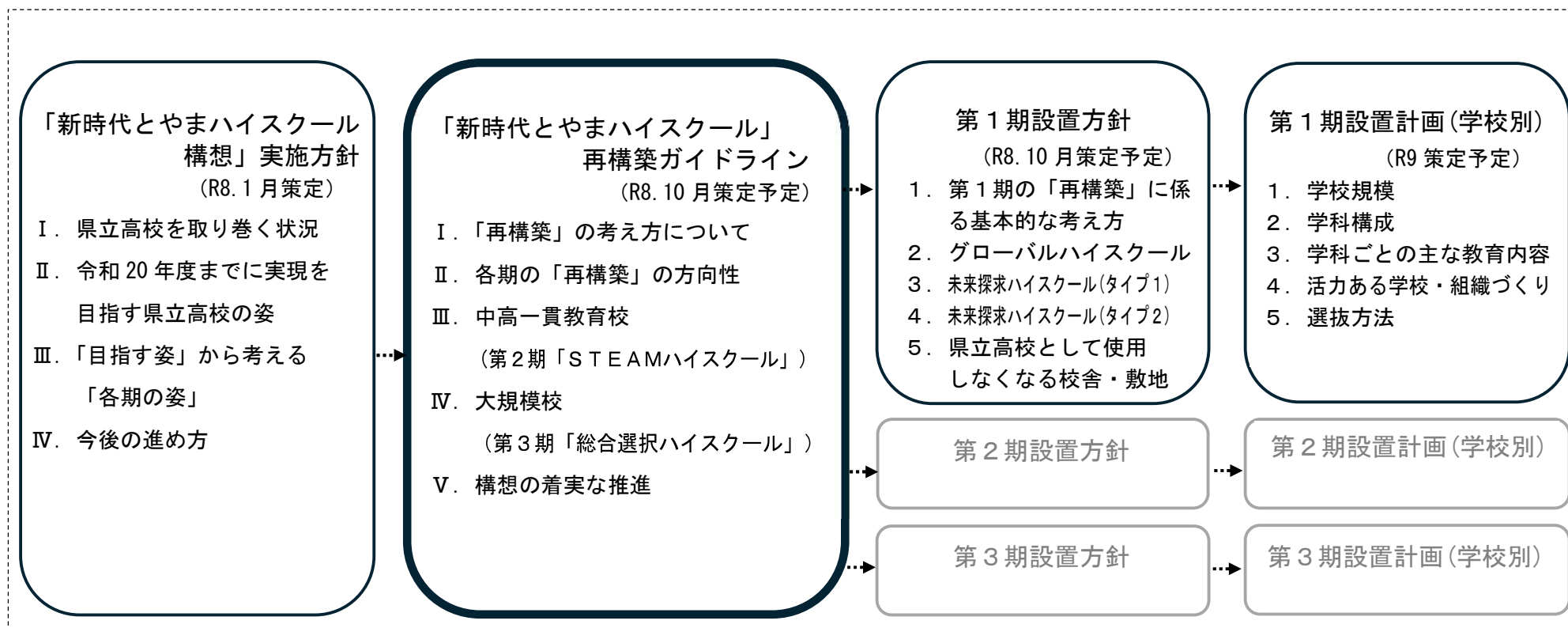


はじめに

このガイドラインは、「新時代とやまハイスクール構想」実施方針を踏まえて、現在の県立高校（全日制）34校を7つの学校類型へと「再構築」していくための基本的な考え方をはじめ、この構想の推進に必要な要素を細分化して示すものです。

実施方針と同様に、構想を推進するための「羅針盤」として位置付けるものであり、国のブランドデザインも踏まえながら、社会情勢の変化や今後の中学校卒業予定者数の状況などに応じて、必要な場合は見直しを行いつつ、構想を着実に推進していきます。

「新時代とやまハイスクール」再構築ガイドラインの位置づけ



追加

新時代とやまハイスクール構想の基本的な考え方はこちらをご覧ください。

「新時代とやまハイスクール構想」実施方針



「新時代とやまハイスクール構想」実施方針

『こどもまんなか』の視点で考える
学びたい、学んでよかったと思える県立高校づくり



みらいを拓く7つのカタチ



新時代とやまハイスクールの7つの類型についてイラストを交え、直感的に分かりやすく説明しています
ぜひご覧ください



目 次

I. 「再構築」の考え方について	・・・ 1
1. 「再構築」の方法	
2. 「再構築」の検討の流れ	
3. 各高校における教育内容を踏まえた「再構築」のイメージ	
4. 新時代HSへの移行手順	
II. 各期の「再構築」の方向性	・・・ 4
1. 実施方針における「各期の姿」	
2. 第3期（令和20年度頃）における学科構成（目安）	
3. 第2期（令和15年度頃）の「地域共創ハイスクール」設置に向けた方針	
4. 各期における配置数（目安）	
（参考）中学校卒業予定者数と募集定員（目安）	
III. 中高一貫教育校（第2期「STEAMハイスクール」）	・・・ 9
1. ねらい	
2. 教育内容等	
3. 学校規模	
4. 中学校入学時の選抜方法	
5. 設置場所	
IV. 大規模校（第3期「総合選択ハイスクール」）	・・・ 10
1. ねらい	
2. 教育内容等	
3. 設置場所	
4. 学校規模と整備方法	
V. 構想の着実な推進	・・・ 14

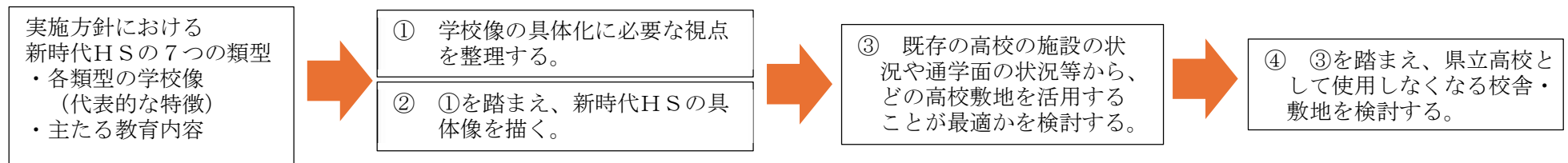
I. 「再構築」の考え方について

新時代とやまハイスクール構想では、将来あるべき姿を描いたうえで、そこからバックキャストिंगの考えで各期の姿を描き、段階的に再編等を行うこととした。このため、全ての県立高校（全日制）34校を移行準備校と位置付け、これまでの各校の教育内容や教育環境に、将来を見据えた新たな取組みを加え、新しい学校へと「再構築」していく。その際には、生徒に幅広い選択肢を提供する観点から検討を行い、移行準備校の中から適切な敷地を活用する。

1. 「再構築」の方法

- ①これまでの各高校における教育内容をもとに、
- ②将来を見据えた新たな取組み（教育内容、教育環境、学校運営など）を加え「今後必要と考えられる教育内容」を整理し、
- ③その教育内容を様々な学校規模で組み合わせ、7つの学校類型に分類したうえで、
- ④今後の中学校卒業予定者数や通学の利便性を考慮し、新時代とやまハイスクール（以下「新時代HS」という。）を県内にバランスよく配置する。

2. 「再構築」の検討の流れ



3. 各高校における教育内容を踏まえた「再構築」のイメージ

これまでの教育内容

基本目標の実現に必要と考えられる教育内容

新時代とやまハイスクール(7類型)

【県東部】

No	高校名	学科	備考
1	入善	普通	自然科学コース・観光ビジネスコース ①④⑤
		農業	⑤⑥
2	桜井	普通	①
		工業	⑥
		家庭	④⑥
3	魚津	普通	①②③
4	魚津工業	工業	⑥
5	滑川	普通	①
		工業	⑥
		商業	④⑥
		水産	⑥
6	上市	総合学	①④⑤⑥
7	雄山	普通	①⑤
		家庭	④⑤⑥
8	中央農業	農業	⑥
9	八尾	普通	福祉コース ①④⑤
10	富山西	普通	①
11	富山	普通	①②③
		探究	①②③
12	富山中	普通	①②③
		探究	①②③
13	富山北部	普通	体育コース ①④
		工業	⑥
		商業	④⑥
14	富山工業	工業	⑥
15	富山商業	商業	④⑥
16	富山いずみ	総合学	①④⑥
		看護	⑥
17	富山東	普通	自然科学コース ①④
18	富山南	普通	国際コース ①③④
19	呉羽	普通	音楽コース ①④

①スタンダード

②STEAM

③グローバル

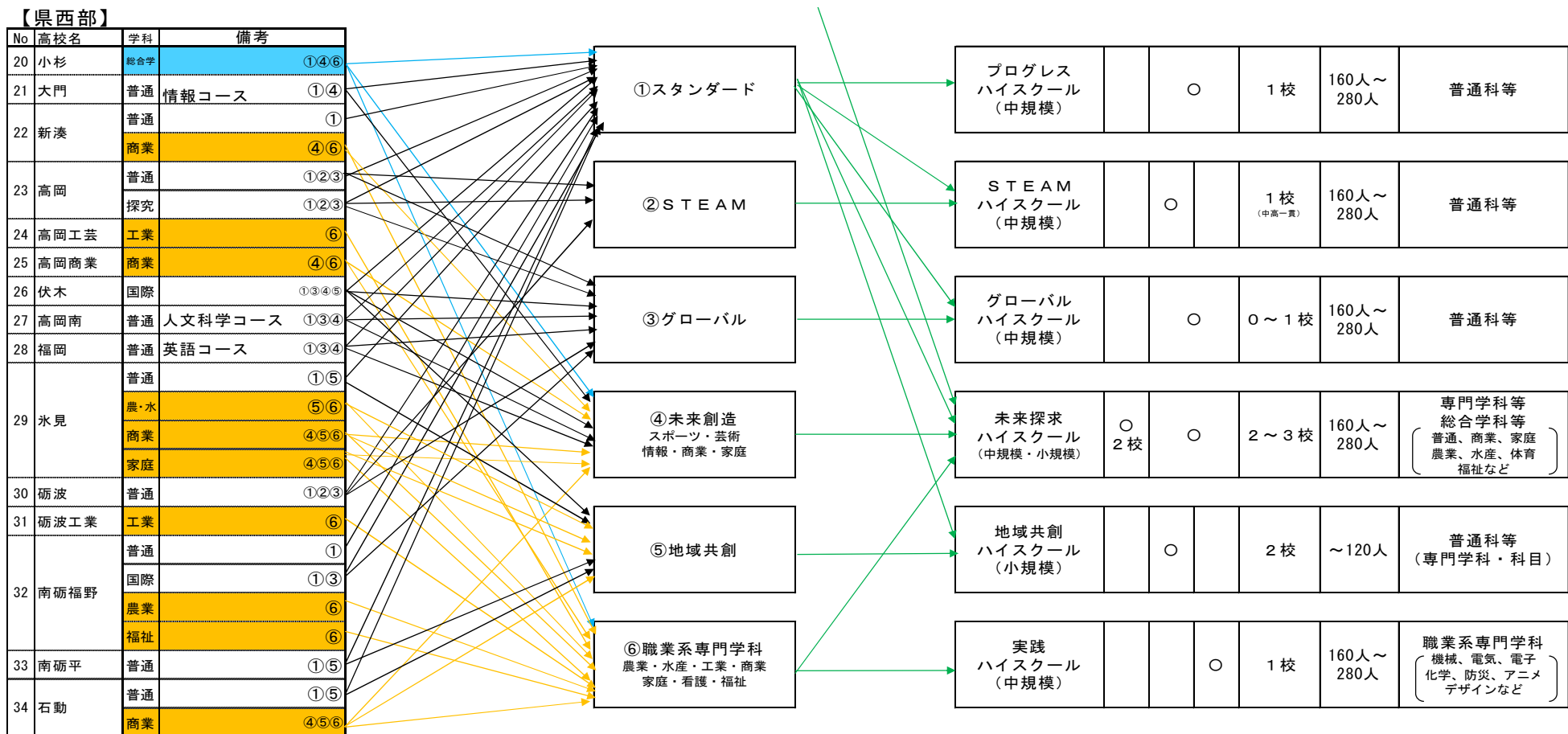
④未来創造
スポーツ・芸術
情報・商業・家庭

⑤地域共創

⑥職業系専門学科
農業・水産・工業・商業
家庭・看護・福祉

⑦エンパワーメント

類型	開設時期			R20年度の 学校数	学校規模 (学年)	学科構成 の方向性
	1期	2期	3期			
プロGRESS ハイスクール (中規模)		○		2～4校	160人～ 280人	普通科等
STEAM ハイスクール (中規模)		○		1校	160人～ 280人	普通科等
グローバル ハイスクール (中規模)	○ 1校	○		1～2校	160人～ 280人	普通科等
総合選択 ハイスクール (大規模)			○	1校	480人	普通科等 + 専門科目 (商業、家庭、体育 芸術、その他)
未来探求 ハイスクール (中規模・小規模)	○ 2校	○		2～3校	160人～ 280人	専門学科等 総合学科等 (普通、商業、家庭 農業、水産、体育 福祉など)
地域共創 ハイスクール (小規模)		○		2校	～120人	普通科等 (専門学科・科目)
実践 ハイスクール (中規模)			○	1校	160人～ 280人	職業系専門学科 (機械、電気、電子 化学、防災、アニメ デザインなど)



4. 新時代HSへの移行手順

論点⑤を踏まえた修正

(1) 新時代HSの設置

- ・移行準備校(34校)に現在設置されている各学科は、各期に順次、募集停止とし新時代HSを設置していく。
- ・その上で、新時代HSの学校名等は、敷地を活用することとなる移行準備校の学校名やその変遷等も踏まえ、検討する。

(2) 各校におけるこれまでの教育実績の継承とさらなる発展

- ・これまで各校で行われてきた学習活動や特色ある取組み、部活動などを新時代HSに引き継ぐとともに、将来を見据えた新たな取組みを加え再構築する。

Ⅱ. 各期の「再構築」の方向性

1. 実施方針における「各期の姿」

今後の段階的な「再構築」の着実な推進に向け、次のとおり新時代ハイスクール構想「実施方針」で示した「各期の姿」の明確化を図る。

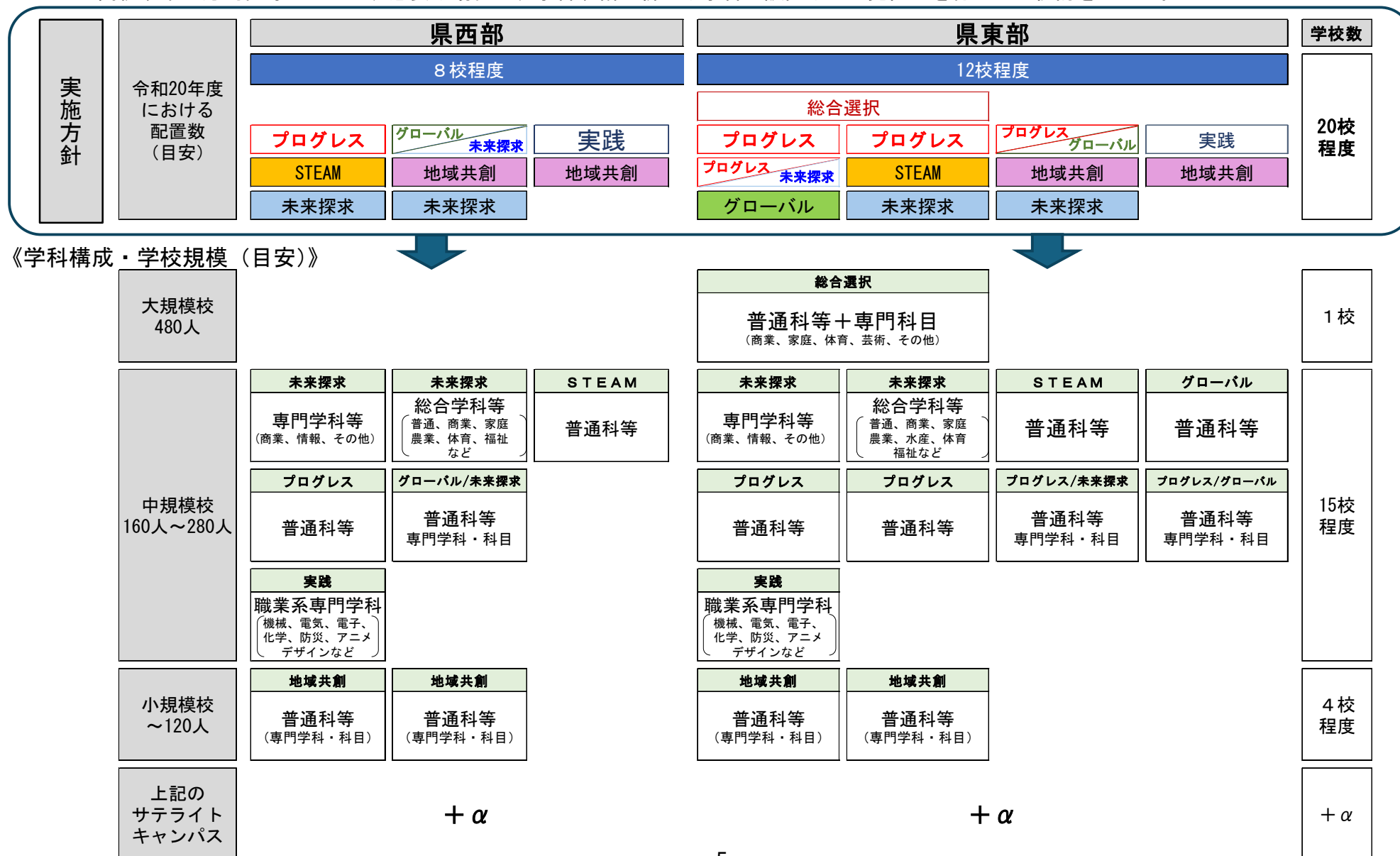
＜実施方針 P.16 「目指す姿」から考える「各期の姿」＞

		全県	県西部(砺波学区・高岡学区)			県東部(富山学区・新川学区)				
		大規模校	中規模校・小規模校			中規模校・小規模校				
第3期	令和20年度頃	★総合選択	★プログレス STEAM 未来探求	★グローバル 未来探求 地域共創	★実践 地域共創	★プログレス プログレス 未来探求 グローバル	★プログレス STEAM 未来探求	★プログレス グローバル 未来探求	★実践 地域共創	全県 20校程度 募集定員(目安) 4,200人程度
	バックキャスト		計8校程度			計11校程度				
第2期	令和15年度頃		★STEAM 未来探求	★地域共創 未来探求	★地域共創	★プログレス 未来探求 グローバル	★STEAM 未来探求	★地域共創 未来探求	★地域共創	全県 26校程度 募集定員(目安) 5,000人程度
	バックキャスト		移行準備校6校程度 計11校程度			移行準備校8校程度 計15校程度				
第1期	令和11年度頃		★未来探求	★未来探求		★グローバル	★未来探求	★未来探求		全県 30校程度 募集定員(目安) 5,500人程度
			移行準備校1校程度 計13校程度			移行準備校14校程度 計17校程度				
現在	令和8年度									全県 34校程度 募集定員 5,926人

※ ★は、各期に設置する「新時代 HS」を示す。

2. 第3期（令和20年度頃）における学科構成（目安）

- ・令和20年度における新時代とやまハイスクールの学科構成は、以下を目安とし、今後の社会情勢の変化や中学校卒業予定者数の状況、国の高校改革の方向性等に応じて、必要な場合は、学科改編や新たな学科の設置などの見直しを行いつつ検討を進める。



3. 第2期（令和15年度頃）の「地域共創ハイスクール」設置に向けた方針

実施方針	令和15年度における配置数（目安）	県西部			県東部			学校数
		STEAM	地域共創	地域共創	~~プログレス~~ 未来探求	STEAM	地域共創	地域共創
		未来探求	未来探求		グローバル	未来探求	未来探求	26校程度
		移行準備校 6 校程度		計11校程度	移行準備校 8 校程度		計15校程度	

（1）実施方針における「地域共創ハイスクール」の姿

目指すべき学校像	主たる教育内容	学校規模
○地域の協働とフィールドワーク 地域の課題解決や魅力発信に貢献できる力を高める。 ・ <u>地元の企業や自治体と連携した探究活動を推進</u> ・ <u>地域の特色ある産業、スポーツ、郷土芸能に関連する探究活動や部活動を充実</u> ・ コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を導入	「スタンダード」＋「<u>地域共創</u>」 ねらい ふるさとに誇りと愛着を持ち、様々な関係者と協働しながら、地域づくりを担うことができる人材を育成 特色ある取組み（例） ・ 地元の企業や自治体の抱える課題の解決を図る探究活動を推進 ・ 地域の特性と高校生の発想を掛け合わせた事業を提案 ・ 特色ある部活動（スポーツ、郷土芸能など）を充実	・ 小規模校（1学年120人以下） ・ <u>小規模校ならではの特色ある教育活動の展開や長期的なニーズ、通学時間の観点から、地域バランスにも配慮して設置する。</u>

（2）「地域共創HS」の設置に向けた対応

論点②を踏まえた修正

① 第1期

- ・ 第2期に設置を目指す「地域共創ハイスクール」については、主に小規模校ならではの特色ある教育活動の展開を目指している。
- ・ 現在、各高校で行われている「地域と連携した教育活動」を充実しつつ、第2期の「地域共創ハイスクール」につなげることとなる。
- ・ また、こうした取組みに対する生徒のニーズを考慮した上で、地域バランスにも配慮しながら「地域共創ハイスクール」の設置場所を設定する。

⇒以上の観点から、第1期の再構築では、市・町に1校のみの県立高校については、募集停止としないこととする。

② 第2期まで

- ・ 各校における地元自治体等との連携活動を整理し、関係者間で情報共有を行いながら、県立高校の魅力化・特色化をさらに進めるとともに、今後、生徒にとってどのような取組みが必要か検討し、地域共創HSの学校像を具体化していく。
- ・ その上で、「地域と連携した特色ある教育活動」や生徒のニーズ、通学時間や地域バランスなどの観点から、地域共創HSを設置するエリアと活用する高校敷地を検討していく。

4. 各期における配置数(目安)

- 令和20年度以降も中学校卒業予定者数の減少が見込まれることを考慮し、1校あたりの定員規模を一定程度確保するとともに、大・中・小規模の学校をバランスよく配置し、生徒に多様な選択肢を提供できるよう、第3期(令和20年度)の学校数の目安を20校程度とする。
- 令和20年度の姿からバックキャストिंगの考え方で各期の姿を描き、各期の再構築後の移行準備校を含めた県立高校(全日制)の配置数は、第2期(令和15年度頃)は26校程度、第1期(令和11年度)は31校とする。
- 新時代HSを県内にバランスよく配置していけるよう、公共交通機関等による通学の利便性を考慮し、以下の6エリアごとに各期の配置目安を示す。

各期の 学校数の目安		県西部			県東部			募集定員(目安) 1校当たりの 平均募集定員
第3期	R20年度頃の 再構築後	8校程度+ α			12校程度+ α			4,200人程度 〔1校当たり 平均200人程度〕
	20校程度+ α	砺波・南砺 2～3校	高岡・氷見・小矢部 5～6校	射水 1～2校	富山 8～9校	滑川・中新川 1～2校	魚津・黒部・下新川 2～3校	
↓バックキャスト								
第2期	R15年度頃の 再構築後	11校程度+ α			15校程度+ α			5,000人程度 〔1校当たり 平均190人程度〕
	26校程度+ α	砺波・南砺 3～4校	高岡・氷見・小矢部 6～7校	射水 2校	富山 8～10校	滑川・中新川 2～3校	魚津・黒部・下新川 3～4校	
↓バックキャスト								
第1期	R11年度の 再構築後	13校			18校			5,500人程度 〔1校当たり 平均180人程度〕
	31校	砺波・南砺 4校	高岡・氷見・小矢部 7校	射水 2校	富山 11校	滑川・中新川 3校	魚津・黒部・下新川 4校	
↓バックキャスト								
現在	R8年度	15校			19校			5,926人 〔1校当たり 平均174人〕
	34校	砺波・南砺 4校	高岡・氷見・小矢部 8校	射水 3校	富山 12校	滑川・中新川 3校	魚津・黒部・下新川 4校	

※学校数の「+ α 」はサテライトキャンパスを含む学校数

(参考)

中学校卒業予定者数

県西部				県東部			全県
砺波・南砺		高岡・氷見・小矢部		富山	滑川・中新川		
R ²⁰ 年度頃	2,426			3,584			6,010
	▲25.2%			▲26.3%			
	515	1,293	618	2,540	490	554	
	▲35.5%	▲23.0%	▲19.3%	▲25.1%	▲24.4%	▲32.8%	▲25.9%
R ¹⁵ 年度頃	2,929			4,258			7,187
	▲9.7%			▲12.4%			
	642	1,581	706	2,997	587	674	
	▲19.5%	▲5.9%	▲7.8%	▲11.6%	▲9.4%	▲18.2%	▲11.3%
R ¹¹ 年度	3,188			4,640			7,828
	▲1.7%			▲4.6%			
	757	1,655	776	3,231	600	809	
	▲5.1%	▲1.5%	+1.3%	▲4.7%	▲7.4%	▲1.8%	▲3.4%
R ⁸ 年度	3,244			4,863			8,107
	798	1,680	766	3,391	648	824	

※下段の割合は令和8年度に対する減少率

募集定員（目安）※

県西部	県東部	全県
1,700	2,500	4,200
2,050	2,950	5,000
2,250	3,250	5,500
2,436	3,490	5,926

※R¹¹年度以降は中学校卒業予定者数の7割を目安に算出

Ⅲ. 中高一貫教育校（第2期「STEAMハイスクール」）

追加

1. ねらい

- ・「STEAM」について継続的かつ計画的に学ぶことや、多様な価値観に接することで、学力だけでなく探究への意欲や思考力・表現力、協働する力を高める。
- ・本県で初の公立中高一貫教育校となることから、幅広い年齢集団での教育実践や、大学との学術的な連携などの成果や課題を、他の高校や中学校に共有し、様々な地域における学校連携の強化や学びの質の向上につなげる。

2. 教育内容等

- ・中学生と高校生の混合グループによる探究活動を実施し、中学生の探究活動への意欲向上や高校生が中学生に教えることで自分自身の学びを深める機会につなげ、より多角的な視点からテーマを深掘りするなど、「併設型」の特色を活かす。
- ・こうした中学校及び高校の具体的な教育内容について、県教育委員会と学校関係者によるプロジェクトチームを中心として、今後、検討を進める。

3. 学校規模

中学校2学級程度、高校6学級程度を目安として検討する。

4. 中学校入学時の選抜方法

文部科学省の公立中高一貫教育校に係る通知等を踏まえ、探究活動に対する意欲、思考力・表現力、協働する力などから総合的に評価することができるよう、今後、小学校・中学校・高校等の関係者と協議しながら検討を進める。

順序変更
1↓5

5. 設置場所

実施方針において設置場所は県西部を基本としていることを踏まえ、通学の利便性や施設の状況を考慮し、現在の「高岡高校の敷地」を活用する。

（検討の視点）

- ・JR氷見線越中中川駅から徒歩5分であり、県西部地域をはじめ広域的に通学が可能。
- ・探究活動の成果発表等に活用できる記念館（蛭雪館）が整備されている。

論点①②を踏まえた修正

Ⅳ. 大規模校（第3期「総合選択ハイスクール」）

追加

1. ねらい

- ・多くの科目や部活動から選択が可能で、多様な考え方に接することにより、他者と協働して社会参画できる力を高める。
- ・多くの生徒・教員が在籍する施設的にも充実した学校とし、学校の枠を超えた課題研究発表会や探究活動、研究、商品開発・販売など学校連携のパイプ役としての役割を担うことで、学校同士が連携した多彩な教育活動の拡大・充実につなげる。

2. 教育内容等

- ・共通科目に加え、スポーツや芸術に関する専門科目のほか、外国語や職業系専門科目など、多様な科目の中から系統的に組み合わせた学び（学系）を提供する。
- ・生徒が学年の区分なく興味関心や進路希望に合わせて選択できる教育課程となるよう「単位制」としての開設を視野に検討を進める。
- ・学科構成や必要となる施設整備等を含めた「整備構想」の策定に向け、今後、県教育委員会内に検討体制を構築し、具体的な検討を進める。

順序変更1↓3

3. 設置場所

実施方針において、県全域からの通学を考慮し、公共交通機関の利便性の高い富山市内の県有地（県立高校敷地など）を活用して整備するとしていることを踏まえ、現在の「呉羽高校敷地」を活用する。併せて、隣接する「富山市舞台芸術パーク」の敷地の一部を活用する。その活用エリア等については、富山市と協議を行い決定する。

（検討の視点）

- ・あいの風とやま鉄道呉羽駅から徒歩5分であり、県全域から広域的に通学が可能。
- ・「富山市舞台芸術パーク」の活用により、大規模校に必要な敷地の確保が可能。

4. 学校規模と整備方法

学校規模や整備方法については、今後の中長期的な生徒数の見通しや生徒のニーズなどを踏まえ、①大規模校の設置による県全体の学校配置への影響や施設設備などの費用対効果を整理しながら、②大規模校のねらいをどのように実現していくかを具体的に検討する必要がある。今後、以下の（１）、（２）の観点でさらに検討を行い、大規模校の整備構想を描いていく。

（１）１学年当たりの学級数による学系独自の選択科目時数の目安

（単位：時間）

学級数	教員配置数※ ¹	【a】 週当たりの 授業時間総数※ ²	【b】 必履修・共通 選択科目時数※ ³	【a－b】 学系独自の選択科目の開設可能時数※ ⁴						
				各学系に必要な時数の目安※ ⁵						
				スポーツ 25	音楽 25	美術 25	書道 20	語学 30	職業系専門 科目等※ ⁶ 各 20～30	
8 学級	64 人程度	960	900	60	○	○	—	—	—	—
10 学級	80 人程度	1,200	1,100	100	○	○	○	○	—	—
12 学級	94 人程度	1,410	1,260	150	○	○	○	○	○	○

※¹ 普通科(単位制)における標準的な教員配置を想定

※² 便宜上、教員配置数×15 時間（教員 1 人の週当たり持ち時数）として試算

※³ 必履修科目と全学系共通の選択科目を開設するために最低限必要となる時間数

便宜上、週当たりの授業時数を 31 時間（総合的な探究の時間を含む。平日は 6 限授業を基本に 1 日のみ 7 限授業と想定）として試算

※⁴ スポーツ学系、芸術学系、専門分野学系等における独自の選択科目が開設可能となる時間数の目安

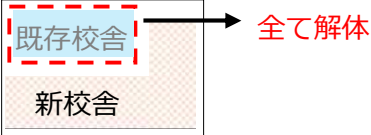
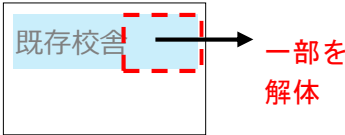
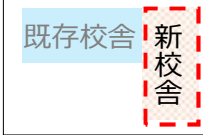
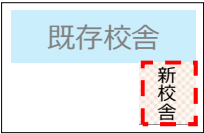
※⁵ 各学系に充てる独自の選択科目時数の目安（他県の大規模校の教育課程をもとに試算）

※⁶ 職業系専門科目等は農業、家庭、商業、情報などを想定

(2) 整備方法の比較

以下の比較検討をもとに「新築」または「既存施設の活用」を検討する。

① 建設費の目安

学級数 \ 建設方法	A. 新築 (既存校舎を全て解体)	B. 一部改築 (既存校舎を一部活用)	C. 増築 (既存校舎を全て活用)
建設方法のイメージ	① 新校舎を新築  ② 既存校舎を全て解体 	① 既存校舎の一部を解体  ② 解体後の跡地に新校舎を増築 	① 既存校舎を全て活用し、校舎を増築 
1 学年 12 学級 (建物延床面積：24,900 m ²)	約 1 6 0 億円 〔うち 既存校舎解体：約 9 億円〕	約 1 3 5 億円 〔うち 既存校舎解体：約 4 億円 増築：約 90 億円 長寿命化改修：約 24 億円〕	約 1 2 0 億円 〔うち 増築：約 66 億円 長寿命化改修：約 38 億円〕
1 学年 10 学級 (建物延床面積：22,900 m ²)	約 1 5 0 億円 〔うち 既存校舎解体：約 9 億円〕	約 1 2 5 億円 〔うち 既存校舎解体：約 4 億円 増築：約 80 億円 長寿命化改修：約 24 億円〕	約 1 1 0 億円 〔うち 増築：約 56 億円 長寿命化改修：約 38 億円〕

※ 建設単価は、過去の県立学校建設時における、構造ごと（RC造、S造）の建設単価に令和8年度までの物価上昇率を乗じて算出

② 建設方法ごとのメリット・デメリット

区分	A. 新築 (既存校舎を全て解体)	B. 一部改築 (既存校舎を一部活用)	C. 増築 (既存校舎を全て活用)
比較	・大規模校のねらいとする教育の提供に必要な学校全体の空間設計が可能。 ・老朽化対策が不要。 ・省エネ性能が高く維持管理費が低く抑えられる。 ・建設費用が最も高い。	・既存校舎の一部解体後の跡地に新校舎を建設するため、工期が最も長い。 ・その他の項目は中程度。	・大規模校のねらいとする教育の提供に必要な学校全体の空間設計に難あり。 ・将来的に老朽化対策が必要。 ・維持管理費が高くなる。 ・建設費用が最も低い。
学校全体の空間設計	良 大人数の生徒の一斉移動に配慮した廊下幅も確保可能。	中程度	制約多い
建設費用*	多 〔 12 学級 約 160 億円 10 学級 約 150 億円 〕	中間 〔 12 学級 約 135 億円 10 学級 約 125 億円 〕	少 〔 12 学級 約 120 億円 10 学級 約 110 億円 〕
設計・工事期間*	中間 (7 年程度) 現グラウンド等に建設	多 (8.5 年程度) 既存校舎解体地に建設のため	少 5.5 年程度
老朽化対応	解消	残る	残る R20時点で築 50 年以上となり、将来的に建て替えが必要
管理費用 ・省エネ性能、維持修繕費	少	中間	多

※ 令和 8 年度現在の市場動向等を踏まえたもの

V. 構想の着実な推進

内容	検討の場	取りまとめ時期
1. 第1期「設置計画」の取りまとめ 第1期「設置方針」取りまとめ後、プロジェクトチームを設置し、以下の内容について学校ごとに検討を行い「設置計画」を取りまとめる。 ① 学校規模 ② 学科構成 ③ 学科ごとの主な教育内容 ④ 活力ある学校・組織づくり ⑤ 選抜方法 論点③を踏まえた修正 「設置方針」を取りまとめた後、第1期校の学校像をわかりやすく説明する中学生向け資料を作成し、中学生や保護者、中学校教職員に対し、高校の特色や教育内容、進路について理解を深めることができるよう、広報の充実などにより早期の情報提供に努める。	教育委員会事務局及び学校関係者によるプロジェクトチーム総合教育会議	令和9年中を目途
2. 県立高校の魅力向上・特色化の推進 国のネクストハイスクール構想を踏まえ、国交付金等を活用しながら、地元自治体や地域、企業、高等教育機関等と連携し、県立高校の魅力向上や特色化を推進するとともに、各校の特色を中学生や保護者に理解いただけるよう、広報の充実などにより情報発信に努める。	有識者会議等総合教育会議	・高校教育改革実行計画は令和8年度中を目途 ・同実行計画に基づく取組みは随時
3. 第2期・第3期「設置方針」及び「設置計画」 各期における新時代HSを着実に設置できるよう適宜、検討を進める。	総合教育会議 有識者会議等	新時代HS設置の 3年度前「設置方針」 2年度前「設置計画」
4. 中高一貫教育校の検討 論点②を踏まえた修正 教育委員会事務局、小中学校及び高校の校長等による検討体制を整備し、高岡市と連携しながら以下の内容等について検討を進め、総合教育会議において「中高一貫教育校設置方針」を取りまとめる。 ・学級数 ・教育内容（教育課程） ・特色ある取組み ・学校運営 ・必要となる施設設備 など	教育委員会事務局 総合教育会議	令和9年度中を目途

追加

追加	5. 大規模校の検討 教育委員会事務局による検討体制を整備し、以下の内容等について検討を進め、総合教育会議において「整備構想」を取りまとめる。 ・学級数 ・整備方法	論点①②を踏まえた修正 教育委員会事務局 総合教育会議	令和9年度中を目途に 方向性を取りまとめ
	6. 学校名の検討の方向性 本県県立高校の名称の特徴や変遷等を踏まえ、以下の点に留意しながら、「こどもまんなか」の視点で検討する。 ① 所在する地域が分かること ② 親しみやすく、分かりやすいこと 新たな学校名とする場合は、「条例改正案」を取りまとめる。	有識者会議等 (第1期は新時代とやま ハイスクール構想検討 会議 総合教育会議 ※条例改正案は総合教 育会議で取りまとめ	新時代HS設置の2 年度前 (第1期は令和9年度中を目途)
追加	7. 募集停止となる学校の学習環境等 在籍する生徒が卒業するまでの間、充実した学校生活を送ることができる学習環境とするため、教員の確保や学校外との連携を支援する。また、部活動の充実に必要な支援についても学校現場の意見を聞きながら検討し、対応する。	論点⑤を踏まえた修正 教育委員会事務局	在籍する生徒が卒業する までの間
	8. 同窓会の検討の方向性 募集停止となる学校の同窓会の取扱いについては、同窓会運営センターの設置等、今後、関係者のご意見をお聞きしながら具体的な検討を進める。	教育委員会事務局	・取り扱いの方向性は 令和9年度を目途 ・個別の取り扱いは随時
	9. 県立高校として使用しなくなる校舎・敷地の活用方法 地域のニーズや住民の声、地方創生の観点等を勘案し、地元の市町村の意向を十分考慮しながら、今後検討・協議することとする。	県(知事部局及び教育委員会事務局)	随時